

ドクター メモ

腰部ようぶ脊柱せきちゅう管つかん狭窄きょうせき症しょう

歩行障がいほこうしょうがいに悩む人は、

専門医せんもんいに受診じゆしんを



足の痛みやしびれ、少し歩いただけで足がしびれて休む、前かがみでないと歩けないなどの歩行障がいほこうしょうがいで病院に行くと、整形外科の医師から「あなたの足の症状は腰からきているようです。腰部脊柱管狭窄症ようぶせきちゅうつかんきょうせきしょうという病気かもしれません」という説明を受けます。聞き慣れない言葉かもしれませんが、腰部脊柱管狭窄症ようぶせきちゅうつかんきょうせきしょうは腰の背骨の中ちゆう（腰部脊柱管ようぶせきちゅうつかん）で神経が骨に圧迫されて、足に痛みやしびれ、歩行障がいなどの症状が出る病気です。原因は、老化に伴う腰の背骨の変形やずれです。近年の高齢化社会において非常に多くの人がかかる病気です。

診断は、腰のレントゲン検査や腰の神経を映し出すMRI検査で行います。治療は、軽症の場合は腰のけん引などの物理療法を行います。重症の場合は薬を飲んで圧迫を受けている神経の血液の巡りを

改善し、症状の緩和を図ります。神経の圧迫が強く、物理療法や薬物療法で症状が改善しない場合は、腰の手術が必要となることもあります。手術は神経に当たっている骨を部分的に削り、神経を緩めて症状を和らげます。

足の痛みやしびれ、歩行障がいは動脈硬化によつて足に血液が流れにくくなることの原因で起こることもあります。治療方法を決めるために動脈硬化の検査も必要となる場合があります。足の痛みやしびれ、歩行障がいで悩んでいる人は、専門の病院を受診して十分な検査を行つて、治療方法を決められることをお勧めします。

吹田市医師会

清水広太しみずひろた